みんなが交流し、
ワクワクする中心市街地をつくりたい

4 都心・交流

(1) 商業空間や都市型住空間としての活用を

〇私たちは、四日市の顔でもある中心市街地をまちの拠点として大切にし、中心市街地が、さまざまな価値観を持った人、年齢や国籍の異なる人など多様な人たちが生き生きと活動し、わくわくするような場所になることを願います。

〇中心市街地を商業空間として活性化するとともに、新しい居住空間としても活用しながら、みんなが交流できる楽しい場所にする事が大切です。空き店舗を、情報発信や学習の場、フリーマーケットなど、若者から高齢者までみんなが交流できる拠点や新しい商業活動をつくり出す場所として活用を考えていく必要があります。

〇高層ビルの空き事務所などを、ベンチャー（情報）ビジネスやトレーディングなどの拠点として活用し、新しい雇用をつくり出すことも必要だと思います。

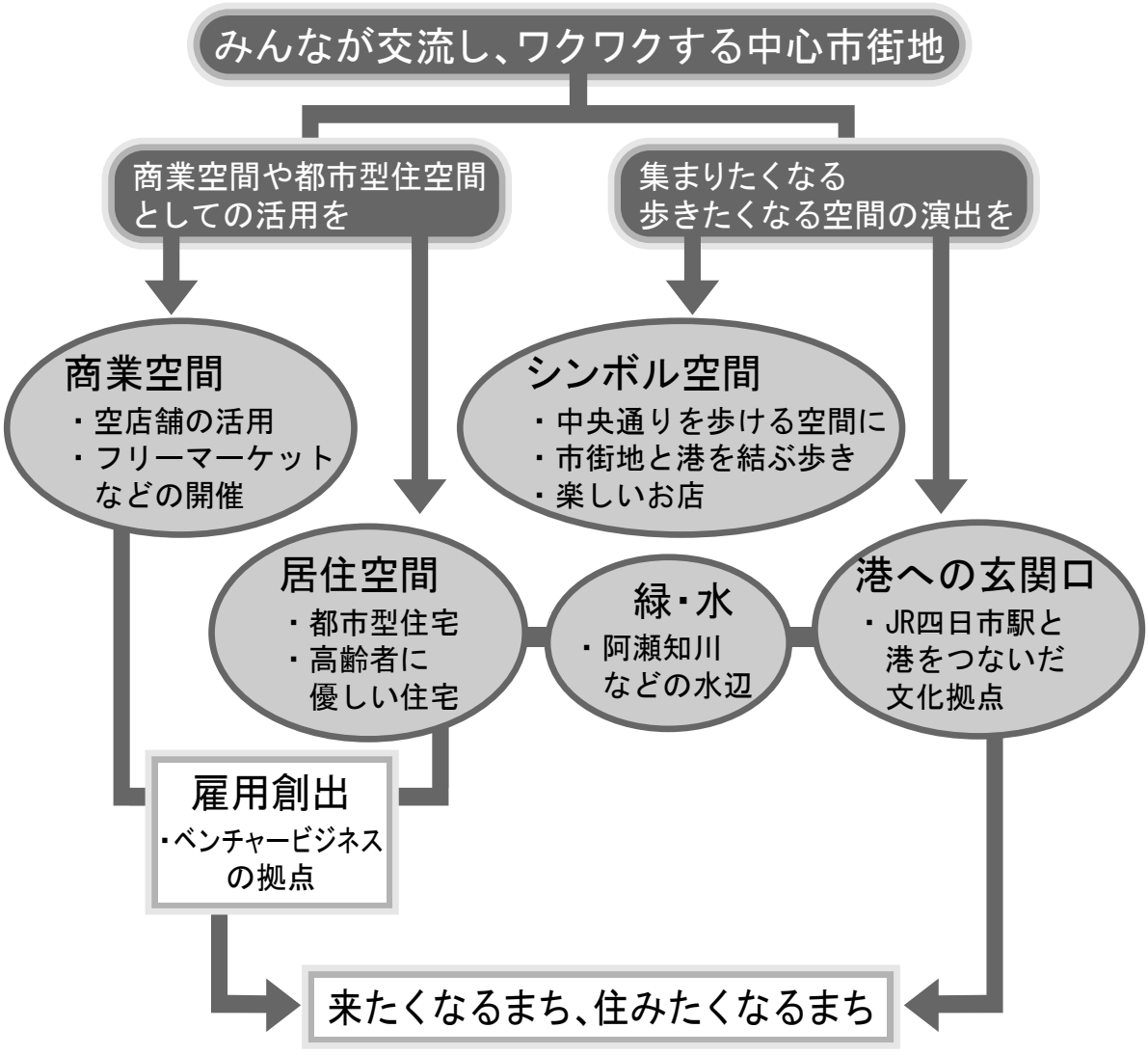
〇中心市街地は、“ハレの場”、楽しみの場ですが、日常的な生活空間でもあり、働く場でもあります。また、表と裏を兼ね備えた微妙な空間でもあります。空洞化が進む都心のストックを活用し、新しいシステムを持った都市型住宅を提供していくことも考えられます。

〇高層ビルなどを新しい都市型住宅として整備し、ビルの１，２階を医療機関や託児所にするなどして、高齢者や小さな子どもを持つ共働きの若い夫婦

（2）集まりたくなる、歩きたくなる空間を演出したい

〇中心市街地には、数々の公共施設や文化施設が分散しているため、それらの施設をループバスなどで結び、まちの結節点として発展させ、だれもが行きやすい施設、移動しやすい中心街にしていく必要があります。駐車場に車を置いて歩いてみたくなる場所にしていくことも必要です。

〇中心市街地には、多くの人が集まり憩うことのできるシンボル空間が必要です。点在している公共施設や文化施設、近鉄四日市駅とＪＲ四日市駅、港をつなぐ軸として、中央通りを公園化して人が歩ける工夫をしたり、四日市の財産である海や港などを生かす、ウオーターフロントの多様な活用も考えられます。

また、阿瀬知川や運河といった水辺空間を生かし、演出を図っていくことも大切です。

○自分たちのまちのルーツを大切にして、市民が支える中心市街地にしていく必要があります。
四日市はかって公害に苦しんだ歴史を持っています。私たちは、その歴史を後世に語り継ぎ、より良い生活環境をつくる努力を続けなければなりません。また、中心市街地が持つ歴史を踏まえ、祭りや古くからの伝統行事などを後世に伝えていく必要もあると思います。